

校長室だより		令和3年11月2日発行
<b>共学共高</b>	第	
	15	発行責任者
	号	白梅学園高等学校長 武内 彰

## 白梅祭～星虹～想いを彩る光となれ

9月11日（土）・12日（日）に予定されていた白梅祭（本校の文化祭）が、約2か月延期となり、11月2日（火）に開催された。9月当初の約2週間を通常時間割に基づく全校オンライン授業としたことにより、この日に延びたのである。

3年生は総合型推薦選抜など大学受験の只中にある生徒もいるため有志参加となったが、8クラス中5クラスが参加した。もちろん、1・2年生は全クラス参加である。感染防止対策のため、昼食をはさむことのないスケジュールが組まれ、午前中での実施となった。

私は、前日の午後、ステージ発表を行う団体のうち、第2体育館でリハーサルを行った、軽音楽部、バトン部、ダンス部、書道部、吹奏楽部の様子を見ることにした。というのも翌日にクラス企画をすべて見るためには、とてもステージ発表を見られないと考えたからだ。軽音楽部の配線チェックでは、各バンドが集まっただけの部ではないことがわかる。全体で役割分担をしてチームワーク良く、スピーカーからきちんと音が出ているかなど、入念に確認をしていたのが印象的だ。相変わらず華のあるバトン部の演技では、全体、3年生、2年生選抜とそれぞれ特徴のある演技構成となっていた。3年生のリーダーが中心となって、全体を点検して、「バトンがまだ弱いね」と言って、再度その部分だけやり直しをしていた。バトンを空中に投げてキャッチする技が決まるたびに、周囲から拍手が起きていたのが微笑ましかった。ダンス部はヒップホップやガールズといった特徴のあるダンスを踊っていたが、完成度が高く、リハーサルそのものもとても順調に行われていた。書道部は床にブルーシートを敷いて、その上に大判の紙を重ね、そこに大きな筆で書くパフォーマンスを行う。これが噂の書道ガールズか、と心の中でつぶやく。彼女たちのはかま姿も凛々しい。吹奏楽部はもはやエンターテイナーである。司会のセリフや部員たちのパフォーマンスも観る者を楽しませてくれる。もちろん、演奏は東京都トップレベルである。体育館の傍らでは、2年生の有志たちが学年の作品となる紙コップを利用した大きな壁画の準備をしている。これは色を塗った紙コップを入れ替えることで3種類の大きな壁画が見られるもので、アイデアもよいし、見ごたえのあるものであった。

2時間半のリハーサルを見守って、校長室へ戻る途中、3年生のあるクラスの生徒たちが駆け寄ってくる。「校長先生、私たちの作った車に乗っていただけませんか！」と言われ、「わかった！」と答える。木材を組み立てて座席と車輪のついた背の高い台車（？）

にまたがり、教室内を移動するものであったが、人力で動かすのだ。女子生徒一人で 70kg オーバーの私が乗った台車を動かすのは大変だったと思うが、これが成功したので、白梅生ならば誰が乗っても大丈夫だろう。明日の健闘を祈る。

白梅祭当日の朝を迎えた。どのクラスの生徒もクラス T シャツに身を包み、いつもとは異なる雰囲気の中である。放送による開会式では、校長あいさつの中で、「学校の文化とは、クラスや部活動など各参加団体の文化の集合体だと言える。自分たちが創り上げたいこと、伝えたいメッセージをそれぞれの企画に込めて、思い切り表現しよう」と呼び掛けた。実行委員長の O さんも「これまで懸命に準備してきたことを出し切って、大いに楽しみましょう」といった趣旨のメッセージを全校生徒に送った。副委員長の M さんも、諸注意を的確に伝えてくれた。

開会式後は、時間との闘いである。全クラスの企画を見るためには 1 分でも無駄にできない。まずは行列になることが想定された 1 年 1 組の「和風 Haunted room」に駆け付け、先頭に並ぶ。開始時刻とともに、2 年生 3 人と一緒に入る。ここは京都風お化け屋敷で、身の毛もよだつ世界だという。ミッションは「見つけると幸福になれる狐のお面を探すこと」、女子たちの先頭を切って前に進む。「校長先生が前にいるから安心」などと発言しているが、こちらは冷や汗ものである。おびえる姿を彼女たちに見せるわけにはいかないのだ。教室内を換気する必要があることから完全な暗闇になっていない分、助かった。無事に幸福のお面を見つけ、ゴール。

2 年 2 組の「トロッコに乗って冒険の旅へ出発」を目指すが、行列しているために断念。このクラスのトロッコは本当によくできていて、まるでプロが作ったのではないかと思われる出来栄であった。

3 年 2 組の「白海水族館」では小型の乗り物に乗って教室内につくられた水族館内部を移動するものであった。こちらでも優しい生徒が私の乗った乗り物を押しながら、解説をしてくれる。透明のビニールでつくられた水中トンネルの両脇には、魚や貝などのゾーンが作られており、生徒が解説をしてくれる。貝がちりばめられたゾーンでは、「宝石がありますよ」と言われたが、見つけられずにいると、優しい生徒が教えてくれた。ホタテのような 2 枚貝の中にきらきらとした宝石のようなものが確かに入っていた。こちらでも無事にゴール。

3 年 1 組の「メルヘンワールド」も行列ができていた。本来ならば入室してから視聴するはずの動画を時間短縮のため、入室前にスマホで確認してからスタート。前日に試乗した、背の高い台車に乗って、3 つのメルヘンワールドを進んでいく。不思議の国のアリス、白雪姫、シンデレラのゾーンごとに生徒から口頭で問題が出される。メルヘンの世界には疎い私だが、優しい生徒たちがそれとなくヒントをくれたので、総合得点は 92 点。とりあえず合格点に達した。私の前に終えたバドミントン部 2 年生 A さんの得点は 100 点満点。さすがである。

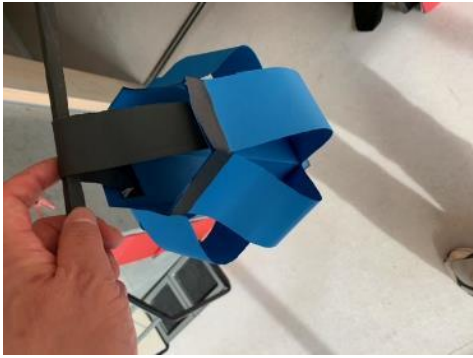
3 年 8 組の「Twinkle Space」では、やはり小型の車に乗って、後ろから押ししてもらいな

がら、輪投げや的あてなどを移動しながら行い、総合得点を争う企画であった。周囲の生徒たちから「すごい！すごい！校長先生、最高得点かも」などと言われたが、本当にこの時点での最高得点 300 点をたたき出し、ニックネームとともに廊下の掲示板に掲載された。

とても全クラスの紹介はできないが、どのクラスへ行っても、生徒たちは活発な様子で、やはり学校行事を楽しみにしているのだと実感させられた。一人一人の取組が、周囲の生徒たちに力を与え、そして周囲から力をもらって、白梅生としての帰属意識を共有するのではないだろうか。さまざまところで楽しみ、きらきらと輝いている白梅生たちの姿を見守ることができ、私も嬉しかった。

一番楽しんでいるのが校長ではないか、と思っている読者様。これも校長の仕事の一つだ  
とご理解ください。(笑)





(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)